

令和5年1月20日

## 330年以上前に中国から伝わった疫神除けの呪い（まじない）が 利根川流域に流布していました

中国怪異小説に端を発し、江戸時代から明治にかけて疫病流行のたびに流布した呪符「籛𪗇乙（きしおつ）」について、利根川流域の事例を初めて比較研究しました。本研究の成果は2022年12月18日付けの『西郊民俗』誌に掲載されました。

### 研究の概要

日本では江戸時代の17世紀後半に「百物語」などの怪談ブームが巻き起こりました。その背景には、この頃中国からもたらされた漢籍が庶民にも出回り始めたことがあり、特に鬼神や幽霊の怪異譚を集めた志怪小説は人々に好まれたのです。更にはこれらの物語に登場する呪い（まじない）がそのまま日本の習俗として定着したものも多かったようです。疫病を除けるといふ不思議な3つの文字「籛𪗇乙（きしおつ）」の呪符もその一つで、1680年代頃から京都で流行し始めました。この「籛𪗇乙」のお札が中央博物館大利根分館をはじめ、利根川流域に複数残されていることが近年明らかになりました。

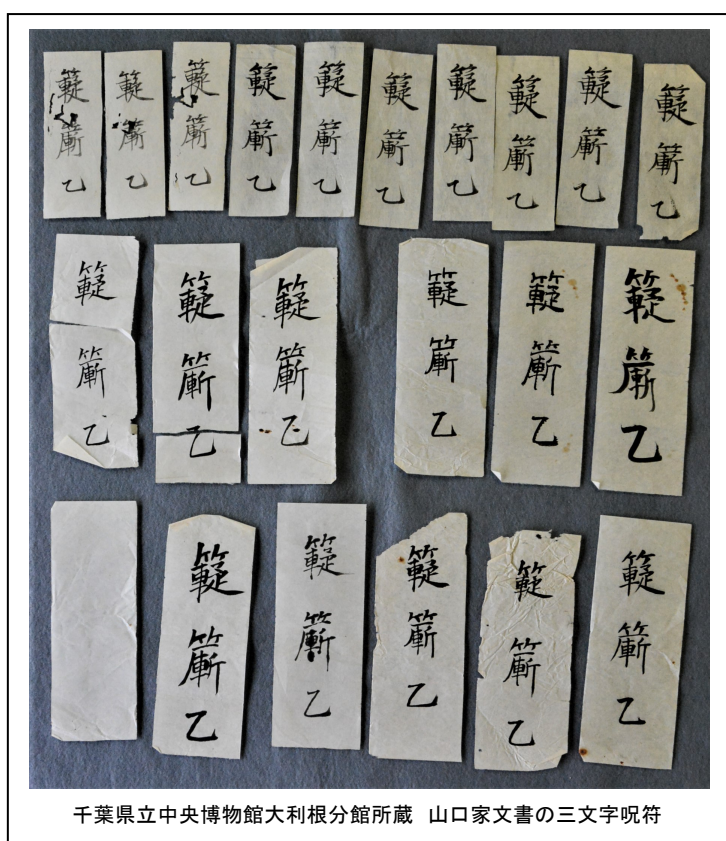
本研究では、上方と利根川流域の交流を通して200年以上にわたって繰り返し伝えられたこの疫病除け習俗の痕跡を追い、一つ一つの事例を分析しながらその伝播の過程を考察しました。

### 発表者名

榎 美香（千葉県立中央博物館大利根分館 主任上席研究員）

### 本文の解説

かつて利根川舟運で栄えた河岸の有力者の家に残された文書の中に、「籛𪗇乙」などの不思議な文字が書かれたものが残されていました。これが何なのか、最近までよく分かっていませんでした。実はこれらは中国の怪異譚を典拠とした疫病除けの文字です。南宋の官人、洪邁（1123～1201）が見聞した中国の怪異譚を集成したとされる『夷堅志』などには、川を渡ろうとする疫神に対し、渡し守が僧侶が書いてくれた三文字のお札を見せて撃退するという逸話が収められています。それがまさにこの文字なのです。この逸話を元に、江戸時代初期の京都では疫病が流行った際、実際にこの文字を書いて家の門に貼ると



ということが行われるようになりま  
した。そしてこの呪法が利根川流  
域のあちこちに伝播しているとい  
うことが分かってきたのです。

本研究では、新たに確認された  
資料を含む、銚子市高田、銚子市  
高神、印西市瀬戸、野田市関宿、  
群馬県高崎など、利根川流域の資  
料について、発見の経緯、伝承地  
の背景などを紹介し、書写状況や  
字形などを比較したうえで、時間・  
空間的変遷と相互の関係性などに  
ついて考察しました。

江戸時代初期から明治期にかけ  
て疫病が流行するたびに、京都・  
大阪から恐らくは舟運を通じてピ  
ンポイント的に、しかし繰り返し  
伝えられたこの呪法は、結局は定

着することなく忘れられていきました。恐らく、こうしたうっすらと日本の民間信仰の中に  
混じりこんでいった漢籍由来の習俗は数多くあり、現在に至るまでに淘汰されていったと考  
えられます。

#### 発表雑誌

雑誌名：『西郊民俗』第261号、2022

論文タイトル：榎美香「疫病除けの呪符「籬籬乙（きしおつ）」考（その2）—利根川流域  
での流布—」

著者：榎美香

#### 関連する事業・研究課題

地域研究課題6（人類誌系：房総という環境の成り立ち及び人々の生活誌に関する研究）

研究テーマ10「房総における疫病除け習俗の伝播」

#### お問合せ先

千葉県立中央博物館大利根分館 主任上席研究員 榎美香

〒287-0816 千葉県香取市佐原ハ4500

TEL 0478-56-0101

（※千葉県立中央博物館大利根分館は現在休館中です）